

## ■ 議題

---

今回の番組審議委員会は、10月10日（土）の『ヒッツ・サタデーズ・パワー・チャージャー』内で午後4時12分より放送したコーナー「俳句のしらべ<sup>\*1</sup>」と、10月19日（月）午前10時30分より放送した『大萱 真紀人の Wish The Wind<sup>\*2</sup>』を聴いて審議に入った。

### ※1 「はいくのしらべ」

コーナー内容： 毎月、1つの句会の俳句を紹介している、俳句を耳で楽しむコーナー。  
この日は、飛騨市神岡町の飛騨神岡高等学校 文芸部の生徒の皆さんの俳句を紹介。  
(放送：毎週土曜日。再放送：毎週金曜日)

### ※2 「大萱 真紀人の Wish The Wind」

コーナー内容： 普段の放送ではまず流れない曲を大萱さん所蔵のCDから選局市、その曲や、それにまつわるエピソードを紹介する番組。主にクラシック、ジャズを放送している。  
(放送：第1・第3月曜日)

## ■ 審議内容

---

会社側： 審議に入る前に、前回の番組審議委員会での意見に対しての回答、報告、今後の放送予定、聴取した番組の補足などを説明した。

大萱委員長： それでは、皆さんからご意見をお願いします。今回は神谷委員からお願いします。

神谷委員： 「はいくのしらべ」については、非常に聴きやすいと思った。途中で音楽が流れてきたが、毎回入るのか？

会社側： そうです。

神谷委員： しっかりとしゃべりの後に少し激しい音楽が流れた為、少し驚いたが、毎回、音楽は変わるのか？

会社側： そうです。季節に合わせたタイトル曲や、雰囲気合った曲などを選曲している。偶然、この時は少し激しい曲になってしまったのだと思う。

神谷委員：率直に非常に聴きやすく良かったと思う。

大萱委員長：私の番組についてはどうだったか？

神谷委員：同じく、非常に良かったと思った。

高島委員：「はいくのしらべ」については、今回、高校生の俳句ということで、若い方の俳句には合わない BGM だと思った。もう少し、若い方向けの BGM であった方が良かったと思う。しかし、途中で流れた曲が「男闘呼組」だったのでそこは良かったと思う。

「With The Wind」については、読売ジャイアンツと阪神タイガースの曲を作った方が一緒だったのかと驚き、聴き入ってしまったのだが、非常に おもしろい番組だと思った。

大萱委員長：「はいくのしらべ」は、田中ナビゲーターの声が落ち着いていて、コーナーに合わせているのかもしれないが非常に好感が持てた。

田中委員：「はいくのしらべ」については、ラジオで俳句を取り上げることは斬新だと思った。コーナーを通してだが原稿に忠実に紹介しているのは、上手なのだが、読んだ俳句の解説など、田中ナビゲーター自身の言葉で紹介しても良いのではないかと思う。そうすれば、堅苦しさがなくなっていくのではないかと思う。それと、俳句から急に曲紹介に入ることが不自然に感じた。

「With The Wind」については、エピソードなどをご自身で調べているということで、自分の言葉で話している感じがして聴きやすいと思った。テーマも「野球」に一貫して、高校野球とプロ野球、巨人と阪神と いった構成も、番組として面白いと思った。

大萱委員長：改めて自分の番組を聴くと、少し早口になっている感じがあると思う。

会社側：時間の関係上（配分）、情報が盛りだくさんで時間内に紹介しようと思うと、つい早口になってしまうと思う。

大萱委員長：古関 裕而（こせき ゆうじ）さんの情報は、インターネットを使って調べたり、本を購入したり、音源は CD を購入している。しかし、調べている中で情報が違う所があるので、少なくとも 2 つか 3 つの文献が揃ったことを紹介するように気を付けている。1 つのことだけだと不確定な部分が多いので、そうゆう所は気を付けている。

田中委員：自分で調べた物は愛着を感じるので伝えやすいと思うが、原稿読みだと、そのまま渡されるだけで気持ちが入らないから、ただ読んでいるだけという印象がある。

大萱委員長：基本的に原稿は無い。普段は所々を箇条書きにして、社長（当局大岩）に録音してもらうが、前回の古関さんの収録の時は言い忘れてはいけないことや、間違っただけを言ってはいけないので、初めて台本を作成した。しかし、配分時間をオーバーしてしまい録音のし直しをした。台本をカットしようと思ったが元にやり方に戻した。箇条書きにしてなるべく自分の言葉に直して再度録音した。初めてそのような経験をした。

田中委員：聴いている方は、その方が聴きやすいと思った。

大萱委員長：しかし、しゃべりが早口になっている。

原委員：「はいくのしらべ」については、たまたま飛驒神岡高校の内容だったが、昔、私の商店街（国分寺商店街）で「川柳行燈」というものを行っていた時、飛驒神岡高校の生徒が川柳を作ってくれて、先生たちも頑張ってくるのがずっと繋がって「今の部活動になったのかな」と懐かしく聴いていた。しかし、この内容を聴いて「これは俳句なのか？」と感じてしまった。また、途中のBGM（俳句を紹介している）は要らないような気がした。7分間位のコーナーなので「場面を変える」ということも有るかもしれないが、俳句だけに徹してもよいと思った。それとBGMはもう少し静かに入れた方が、聴き取りやすいと思う。田中ナビゲーターはもうベテランなので、しゃべり方も上手くなってきたので、しゃべりについては特に指摘する部分は無い。

「With The Wind」については、本人の目の前で辛口なことを言うつもりだったが、特に無い。

大萱委員長：今回、私の番組を聴取して頂いたので、この場を借りて相談したいのだが、今後も古関 裕而さんの特集を考えており、番組の構成上どうしても避けて通れないのが軍歌なのですが、軍歌を放送することによって、不快に思う人も出てくるのではないかと危惧している。と言っても軍歌を流さないわけにもいかないとも思っており、その辺りのことをお聞きしたい。

原委員：特に放送しても良いんじゃないですか。その時代のことを話す訳だから。

大萱委員長：ありがとうございます。放送することで構成を考えたい。  
他にご意見はありますか？無ければ事務局にお返しします。

会社側：貴重な意見を頂き感謝している。番組向上に繋げていきたいと思う。

---

■審議機関の答申又は、意見の概要を公表した場合における公表内容、方法年月日

---

令和2年10月27日（火） 番組審議委員会の席上で説明

---

■その他の参考事項

---

次回開催日 令和2年12月下旬

開催場所 飛騨地域地場産業振興センター（予定）